

瑞龍寺 花園会だより

第12号

(平成29年3月発行)

発行 大圓山 瑞龍寺花園会
〒064-0802 札幌市中央区南2条西21丁目1-8
電話(011)611-3228/FAX(011)613-8458
編集責任者 花園会会長 長尾 章郎

本年度は入寺以来、私も九十一年を迎えることになりました。その間、法要儀式として普山式、北海道場開創百年祭、先々住職三浦承天老師五十年遠諱、先住職中川祖臨老師十七、二十三回忌法要を執行し、又、運営事業としては、坐禅堂、開山普賢堂、寺門柱、百年祭記念石碑、永代供養施設等の各種建立、境内境界として新しくモルタル塀を構築致しました。更には、新佛像として禅宗釈迦三尊仏である普賢菩薩

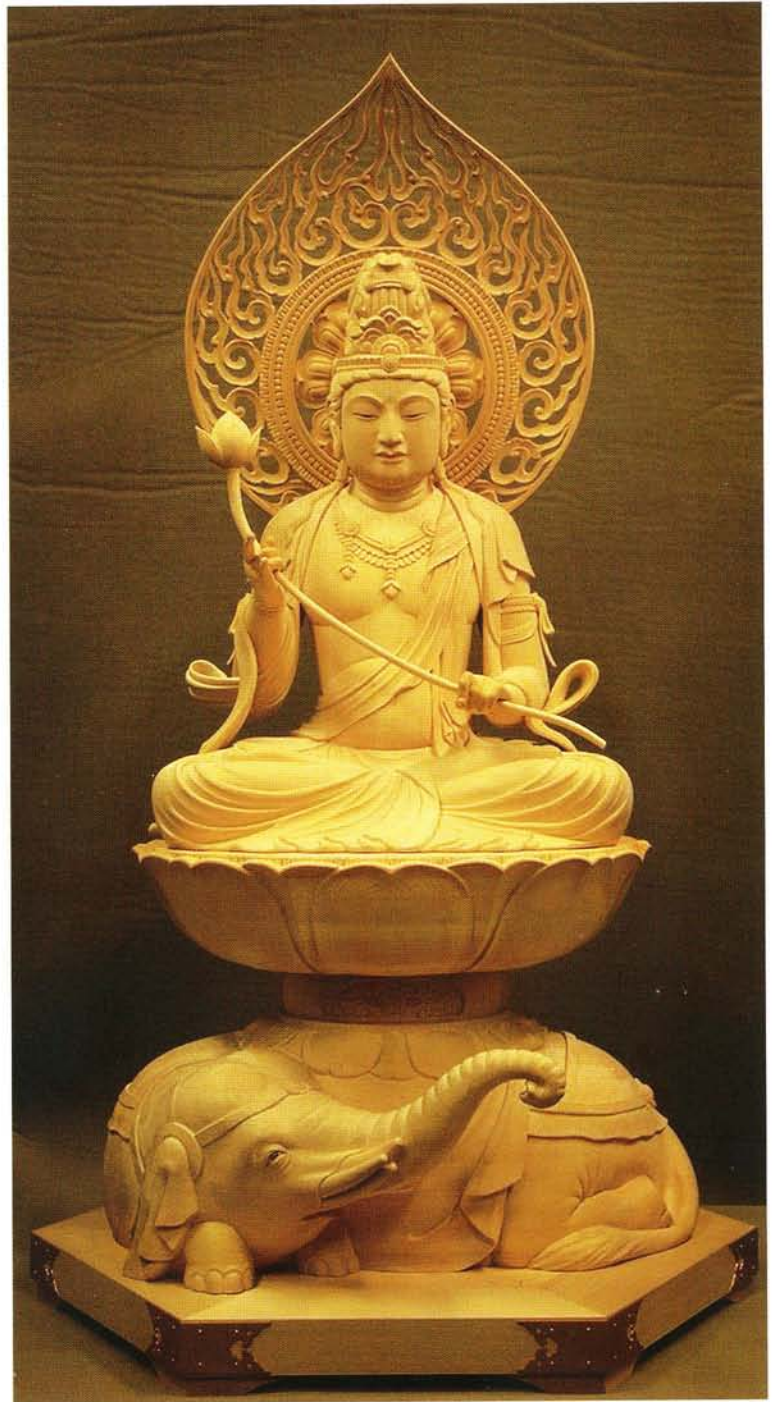
平成二十九年度を迎えるに当って

住職 皆川 彰久

薩像を仏師に依頼して後世に残り得る信仰仏として開山堂に安置しました。これまでに皆々様のお蔭をもちまして、現在、このように寺の施設が護持・発展されております。しかしながら、全国の宗教法人組織としての寺の運営護持が社会状況の激しい変化のもとで厳しい環境状態におかれております。幸い当山は今のところそれ程の影響もなくむしろ安定して護持役員とともに運営されております。しかし、今後は

世代交替の時期にかり、寺に関わる檀信徒の思いを少しでも向上できるような喫緊の課題となってきました。もともと当山の存在価値は基本的に「志の寺」でありたっております。都会での人との連携が薄れている現在、もう一度原点に帰って、寺を信仰の対象として復活できればと望んでおります。その為には又、制度としての檀信徒組織も越えて社会に開かれて生かされておる新しい寺の護持構築も必要となってきました。

本年度もよろしくお願い申し上げます。



普賢菩薩 像

写真で振り返るこの1年



栽松塔法要



施餓鬼法要



お盆 新盆

北海道教区花園会の

会長に就任して

長尾 章郎



不肖私が、本年三月に表記の会長に就任することになりました。

道内には二十四ヶ寺の臨済宗妙心寺派の寺院があり、その檀信徒は六千二百世帯を数えます。私たちはその一員として、開山無相大師さまの教え「請う其本を努めよ」「自分とは何か。本当の自分を知ることこそ人生の基本命題である」ということを考え、1日に一度は手を合わせたいたいです。

この北海道教区花園会には、下部組織として女性部と青壮年部があり、今年の六月二十一日と二十二日には、青壮年部が幹事となって道東の置戸で第五回目の花園会会員交流会が開催されますので、皆様の参加をお願い申し上げます。また、十月三十日と三十一日は、札幌市内のホテルで教区花園大会が開催されます。この大会は臨済宗の趣旨に基づき、檀信徒相互の同信同行の自覚に徹することを目的に開催され、坐禅と写経さらに今回は講談師「一龍斎貞弥」さんをお迎えして、演題「白隠禅師」の特別講演があります。是非とも皆様のご参加をご案内申し上げます。

ともあれ、道内二十四ヶ寺の益々のご繁栄と、檀信徒約一万人の皆様のために、少しでもお役に立てればと思っております。

合掌

開山忌講演会に参加して

十一月二十三日、鎌倉にありまます臨済宗建長寺派の管長猥下をお招きして、「禅」についての法話がありました。講師の吉田正道老大師は、昭和十五年に岐阜県美山町にお生まれになり、昭和六十二年に建長寺派第七大管長になられ現在に至っております。

鎌倉の建長寺は、我が国最初の禅寺で、素晴らしい桜の名所として知られています。吉田老大師は小学校1年の時に父親を亡くし、三年生の時からお寺に入信し、お寺では棄てる物は一切ないという苦しい生活であったが、今では楽しい思い出になったこと。人には縁が大切で、恥も名譽にもならぬよう。そして挨拶に期待しないこと。坐禅は背筋の伸ばして「無・色・空」の世界にとのお話しの後、人ととは悩み、苦しみ、邪念を持つものであり、こんな事ではなかったとは考えないことなどというお話がありました。



平成二八年十月十一日 北海道教区花園大会に参加して

森 隆明

十月十一・十二日の二日間、阿寒湖温泉鶴雅旅館で表題の大会が開催されました。道内二ヶ寺・九六名の参加者でした。

瑞龍寺からは皆川老大師、長尾章郎さん、巻敬太郎さん、副住職の佐藤和光和尚、森の五名で長尾さんの車に便乗し四時間少々の時間をかけて行きました。

高速道路が一部とはいえ出来ていますので昔では考えられない時間で着くことができました。天気も穏やかで快適なドライブでした。

午後一時三十分に式が開始され、花園会総裁代理として皆川老大師がお話をされ、とかく経済優先になりがちな世の中の危うさについてでした。安心を得るためには金銭に代えられないものがあるはずだ、と信仰の大切さをお話しされました。

開会式のあと、二時三十分から「生き物から学ぶ思いやりの心」という講演が、元札幌円山動物園園長で、当瑞龍寺花園会会長である長尾章郎さんが一時間を超えるお話をしました。

お話を聞くうちに、私の幼いころの円山動物園の光景が思い浮かんできました。長尾さんよりは若干年下ですが、ありありと思ひ出されました。昭和二六年の開園当時は三種類の動物しかいなかったそうです。私が六歳くらいだったでしょうか。昭和も三十年代になると私も少年期になりましたのでよく動物園に行きました。キャラメルのでよく動物園に行きました。キャラメルのでよく動物園に行きました。無料で入れてもらえたと記憶しています。

当時の園長中俣さんが昭和二七年に「象を買ってくれ」と市に依頼したのだそうですが、その頃の札幌市は裕福ではありませんでしたので依頼に応えることは出来なかつた。そこで中俣さんがなかつたエピソードなどを聞くことができました。

長尾さんが動物と関わることになった経緯や動物園で動物の世話しながら、動物の子育てから学んだことの中に、子は親の背中を見て育つ、自分から自発的に学ぶということを知ったそうです。

見物客が餌をやるのが一番イケナイのだとも教えてくれました。その先が、餌付けの怖さ、自然の循環。「天敵」という自然の摂理を強調していました。

長年の貴重な体験からの講演は、この大会にふさわしいものでした。人への思いやり、生き物への思いやり、自然への思いやりでしょう。というものでした。

参加者全員での会食は、カラオケを競い合いながらも和やかに、笑いの中に終わりました。



梅祭りへのご案内

平成十三年の夏に、瑞龍寺花園会が結成され、これを記念して平成十五年に菩提寺の庭園に地域の人が気軽に訪れる場になればと、檀信徒百五十人が集まって梅の木四十八本を植樹したのが始まりです。

この梅園のコンセプトは「和敬清寂」と付けられています。梅の香りに包まれ、静かに眼を閉じ合掌する一時を過ごす時があつてもと思います。

宮城県松島の瑞巖寺から分けて頂いた臥龍梅も元気に花を咲かせております。

植樹してから早十四年になり、満開の時は写真の通りそれは見事です。

今年の梅祭りは、五月七日の日曜日の午前十一時を予定しております。ささやかですが祝宴を執り行いますので、是非お子様づれで皆様のご参加をお待ちしております。



昨年の様子

❀ ❀ 平成29年度 瑞龍寺行事予定 ❀ ❀

開催日		行事の内容
4月8日	(土)	花祭り法要・法話
5月7日	(日)	梅祭り
8月20日	(日)	お盆・施餓鬼法要
8月27日	(日)	栽松塔法要
9月24日	(日)	秋の彼岸法要
10月4日	(水)	秋季特別布教
11月23日	(木・祝)	開山忌法要
H30.1月7日	(日)	大般若法要
3月18日	(日)	春の彼岸法要

【平成29年 回忌表】
 年回忌にあたる方は、お早めに問い合わせ下さい。

一周忌	平成28年
三回忌	平成27年
七回忌	平成23年
十三回忌	平成17年
十七回忌	平成13年
二十三回忌	平成7年
二十七回忌	平成3年
三十三回忌	昭和60年
五十回忌	昭和43年

○ 編集後記 ○

今年は何年です。
 皆様にはトリにあやかって福を「とり」こみ、色「とりどり」の夢が叶う年になりますようにお祈り申し上げます。
 我々の菩提寺「大圓山瑞龍寺」は、大正九年（千九二〇年）に「開創」されました。それより数えて二〇二〇年（東京オリンピックの年）には百周年を向かえることとなります。
 お寺ではそれに向けての記念事業の準備を今年からスタートします。我々役員もその事業に協力しますので、皆様もご協力の程お願い申し上げます。

花園会だより 編集委員

新しく評議員に成られた方



田中 卓兒